

ふるさと

第 3 号



目次

- 故吉森正人事務局長を偲んで (1)
第3回麻生ふるさと交流会報告
(3)
☆ふるさとニュース☆
「秦野市県人会のつどい」を見学
(8)

発行：2014年3月1日（第3号）
発行：麻生ふるさと交流会事務局
担当：平塚 征英 横田 彰夫

麻生ふるさと交流会

故吉森正人事務局長を偲んで

松本 良樹

私と吉森さんとの初対面は、たしか平成 24 年の秋『ふるさとぶらり旅』の懇親会場だったと思いますが、親しい方は教授・教授とお呼びしていたのを思い出します。

私は麻生観光協会の地域を紹介する『麻生歴史観光ガイドの会』を主宰しておりますが、ガイドも高齢化が進みリタイアされる方も多く、新しい若い方の参加が必須の条件となりました。幸いガイドの赤荻さんから吉森さんの勧誘に成功され、また吉森さんの所属される『さんさん会』の高橋武彦さん、玉木 廣さんの参加にもご尽力され、俄かに若返りに成功致しました。

吉森さんのガイドとしてのデビューは平成 25 年 4 月の岡上で東光院を担当して頂きましたが、難しい真言密教を流暢なお話で参加者に深く印象に残るお話をされていた事に感銘を受けたものです。

時が過ぎ、『ふるさと交流会』の発足に当り、吉森さんのご健闘ぶりには頭が下がる思いが強く、三手先を読む力にも感動を覚えたものです。

本当に惜しい人を亡くしたものだと言えずに残念でなりません。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

合 掌
(麻生ふるさと交流会 会長)

故吉森正人事務局長を偲んで

宮本 直紀

吉森さんと最初に出会ったのは 2 年位前の OX のテラスだった。テラスの主の H さんの他、さんさん会の数名が一緒だったと思う。

皆から教授と呼ばれ、気さくなお人柄で何度か顔を合わせるうち、カラオケ楽会の『ふるさとぶらり旅』にお誘いし、テラスやつづらおで飲む機会も増えた。

その後は、サンキン会での講演『理系人間と文系人間』をお願いしたり、カラオケ・やまゆりでの交流を経て『麻生ふるさと交流会』の立ち上げ、事務局長として全体・雑務をお引き受けいただき采配を振るわれました。

エネルギーで緻密な頭脳は、『麻生ふるさと交流会』の発展に必要な方であり、悔やんでも悔やみきれません。

地域の交流をなにより大切に考えておられたご意思を、皆で引継ぎ頑張っていきたいと思えます。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(サンキン会ほか)

もう一度聴きたいメールメロディー メール友吉森教授様

鈴木 毅

テーブルの携帯電話からCメールのメロディーが鳴るとはっとします。

もう吉森教授からのメールは届かないのだ。

Cメール受信はほとんど吉森教授か妻だった。(妻からはたまにだ。)

今も忘れない教授よりのCメール 絵文字もない几帳面な文章。

1 2月3日 23:24 23:50 23:56

1 2月4日 19:26 20:21 22:49 23:06

1 2月5日 14:21

その後やまゆりで澤田さんと3人で蕎麦打ちの打ち合わせをしたのが吉森教授との最後の思い出です。

時々メールを頂きました。打ち合わせ後つづらおなどで色々話もしました。

教授は大学のこと、学生のこと、海外での授業のこと、また宇宙、星、自然など。私は会社時代のこと、金沢のこと、親父のこと、先祖のことなど。

本当に話し好きで、8割は教授が話していました。いろいろ何でも知っていて感心しました。いつもいつの間にか時間が過ぎていきました。

携帯電話の吉森教授からの受信欄を見るたび思い出と、悲しみがこみ上げ、どうしても消せません。

宇宙が好きだった吉森教授。オリオン座から、ふたご座から、おとめ座から、シリウス星から、もっともっとはるかな宇宙から、もう1度 もう1度 教授の着信メロディーを私に聴かせてください。もう1度。

(さんさん会)

ふるさと第3号の表紙について (吉森さんの思い出)

ふるさと第3号表紙の絵は、故吉森事務局長が昨年10月の第2号作成時に準備されたものです。その時には、第2号に使った写真と今回第3号で使った日下部さんの絵の二つをメールで送って下さいました。

日下部さんは、余り目立ちすぎるので・・・と、使用することを固辞されていたので、吉森さんは、“いずれ日下部さんの絵は使える時がくると思いますので、私は、今回は諦めました。”とコメントされました。

このたび吉森さんが突然お亡くなりになられて本当に残念ですが、10月のメールが吉森さんのご遺志と思われまして、日下部さんに使用することをお願いし、了承を得た次第です。

(編集担当：平塚)

第3回麻生ふるさと交流会：報告

場 所：麻生市民交流館 やまゆり

日 時：平成26年1月18日(土)

15時30分～19時00分

第1部：麻生ふるさと交流会（司会 辻村一男さん）

15時30分～17時

開会にあたり、昨年12月15日に逝去された故吉森正人事務局長の冥福を祈り、一分間の黙祷を行いました。

続いて会長の松本良樹さんより、第3回麻生ふるさと交流会に参加のお礼と、これからの会の益々の発展を祈願したご挨拶がありました。

参加人数は41名で、今回初めて参加された方は2名でした。



第1部の1：九州県人会の皆様によるふるさと自慢

九州県人会は、国武 到さん、谷口永恭さん、谷田貝ヒロミさん、日下部素子さんの4人ですが、当日は谷口さんと国武さんより、パワーポイントを使った九州各地の案内がありました

先ず最初に、谷口さんにより、九州男児の語源・特徴、新婚旅行メッカの九州、ななつ星で行く九州観光、長崎県の名物・名所などの紹介がありました。



九州男児！



博多祇園山笠



無法松の一生



新婚旅行は！ 大分・別府温泉



宮崎・青島



雲仙地獄



長崎のぶらぶら節



精霊流し



くんち



グラバー邸



長崎軍艦島



長崎は、やっぱりカステラ

続いて、国武さんによる熊本県の名所・グルメ・歴史などの説明がありました。



国武さん

熊本県の名所・名物ランキング

名所	① 熊本城
	② 阿蘇山と草千里
	③ 通潤橋
	④ 水前寺庭園
	⑤ 山鹿灯籠
名物	① 馬刺し
	② 辛子れんこん
	③ いきなり団子
	④ 肥後赤牛
	⑤ だご汁

熊本県の宣伝部長

くまモンによる熊本紹介



熊本城



水前寺公園



通潤橋の放水



阿蘇五岳と草千里



名物は： 馬さし



辛子レンコン



いきなり団子



だご汁



肥後赤牛

第1部の2：阪神間グループによるふるさと自慢

阪神間グループは、井手秀彦・洋子さんご夫妻、田中元介さん、中村利武さん、藤田康郎さんの5人のメンバーです。

阪神間のふるさと自慢は、こいさんのラブコールで始まり、最初から会員を味方に付けてのエンタテイメントで、大いに盛り上がりました。…以下、動画でなくて残念！！

こいさんの洋子さんと4人による大阪弁での寸劇「番頭はんと丁稚どん」で、もう一度盛り上がりました。

井手秀彦さんによる阪神間の説明は、手書きのマップに皆さんの実家と似顔絵で結んだ手の込んだ力作を使って行われました。平清盛により開かれた大和田の泊、神戸の歴史、社会、神戸から西宮までの灘五郎の酒蔵、有名菓子メーカー、チョコメーカーは殆ど阪神間を発祥の地としている。etc



5人のメンバー



こいさん 番頭さんと丁稚どん



阪神間の説明

続いて藤田さん他による阪神タイガース自慢、やまゆりの2階はすっかり甲子園球場、六甲おろしは聞こえるやら、鳥谷選手の打席の応援ソングやら、いつの間にか阪神ファンに、みんな引きづり込まれます。



関西人の見分け方は、洋子さんが手で銃口を作り、4人を立て続けに打ち、打たれた時のもがき苦しみ方で判るのだそうです。

最後は宝塚の話題で、「すみれの花咲く頃」を身振り手振りよろしくのご披露でした。



第2部はパワーポイントによるプレゼンで、先ずは田中さんにより「神戸の美味散歩」、続いて中村さんにより、今回の懇親会の差入れ（福寿2本）の説明。山中教授がノーベル賞を受賞された2012年のノーベル賞晩餐会で提供されたお酒だそうです。



田中さん



神戸牛ミートパイ



明石焼き



中村さん



ステーション・マデレン王女と山中教授



差入れの福寿

第2部：交流と懇親を深める会（司会 辻村一男さん）

懇親会は松本会長の音頭で乾杯し、差し入れの飲み物食べ物で大変盛り上がりました。今回も会員有志の方々より、色々と沢山の差し入れを頂戴しました。（敬称略）

お酒

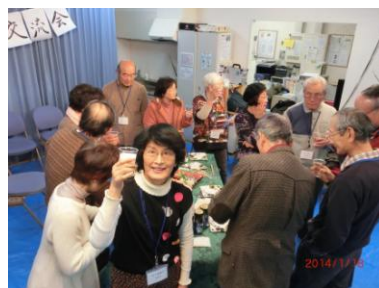
宗玄、立山、吉乃川、八海山、白鶴、福寿
ドン・ルチアール(ワイン)、赤霧島(焼酎)

お料理

おにぎり・ナマス・お煮しめ、お漬物
カステラ、落花生(味噌ピー)
元氣干梅、キムチ

鈴木・吉田・飯塚・千葉・
平松・阪神間G・田中(元)・
宮本

五十嵐・大出・九州G・
川口・吉岡





私の写真が入っていない！とか、写真載せないで！などと言わないで下さい。
懇親会終了後は、いつものように会場の後片付けをして、喫茶店での楽しい語らいとなりました。

(編集担当)

「秦野市県人会のつどい」を見学

川口 陽子

大雪の翌日 2/9 に、6 名で秦野市文化会館で行われた「第 6 回秦野市県人会のつどい」を見学して来ました。4 回、5 回と今回で、3 回拝見しています。

市職員、県人会連合会長木村氏にご挨拶して、宮本さんから「ふるさと交流会」の会報（創刊号と第 2 号）と手土産をお渡ししました。

会場中央来賓席には、山形県産の手土産を置かれた席が用意されていました。北海道から鹿児島まで、15 道県人会（京都は同郷会）が参加しており、大黒舞（山形県）から始まり、市長、市議会議長、県会議員の祝辞が有り、いよいよ開始です。



トップバッターはコーラスで、皆が知っている「春の小川、あざみの歌、故郷」の作者は、おらが県の出身者です。と紹介したのは長野県人会でした。バックスクリーンには、“信濃の国”の歌詞と風景が映し出され、県民歌を皆が知っていると言う素晴らしい郷土愛(教育)だと感心しています。



各県それぞれユニークで、正調花笠踊り、佐渡おけさは、流派により踊り方が全然違う物を披露。現代版【奥の細道】は福島県人会で、芭蕉と曾良に扮した寸劇は素人っぽく、思わず微笑んでしまう、ほっこりしたお芝居でした。



途中、バス中で出会った知人は「友人のご主人が秋田県出身で、出演されているので、応援に来た」と言っていました。

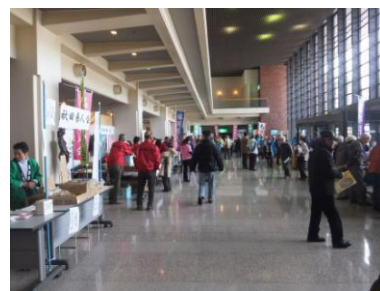
興味を持った唄は【京の通り唄】で、数え歌の様に碁盤の目の通り名を覚え易く組み込んで口ずさむ事で、自然と覚えられる面白い唄でした。

秦野の瓜生野盆踊りも参加して、旧市民、新市民が一体となって親睦を図り、素晴らしい活動へと成っています。市長の話ですと代々秦野市民は 30%で、他県から移り住まれて第二の故郷として、お子さん、お孫さんが成長されています。年に数回、同郷の人

が集まり、懐かしい故郷の話、思い出話で絆を強め、子供や孫にお国自慢を披露して、魅力を語りついで欲しいと思います。

会場前のホワイエでは、各県人会のブースが設置され、特産品の販売、照会等ふるさと自慢が並んでいます。

会長さんの挨拶で「えん（縁、援、円）」が必要とおっしゃっていましたが、麻生区と秦野市も同じ位の人口ですし何かのご縁だと思っています。



秦野市県人会の歌の中に、故郷恋しい時は仲間がいるよ、お国言葉で語り合い、若い人達は巣立って行く日が来ても見守ってくれる故郷が有るよと、メッセージが入っています。

会長さんから、宮本さんへ「市長に会報をお見せした事、麻生区との交流に感心された事、大黒舞を出張(出前)しても良い等」ご連絡が有りました。「ふるさとぶらり旅」から「ふるさと交流会」に変わり、隣人、知人に声を掛けて頂き、思わぬ出会いが有るかも知れませんので、輪が広がります様に願っています。

編集者付記：

パンフレットの会長挨拶末尾の「望郷ふるさと・愛郷秦野」が気に入りました。